

計画対象期間

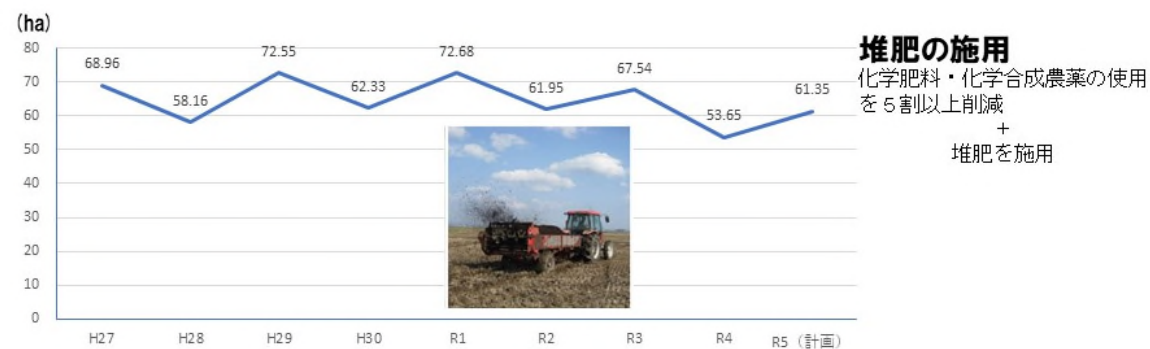
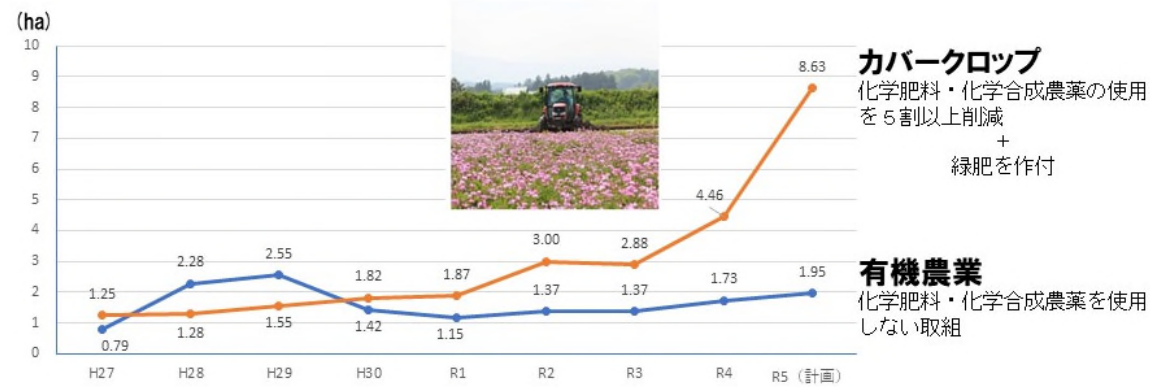
令和6年度(2024年度)から令和10年度(2028年度)

有機農業の現状

2020年農林業センサス

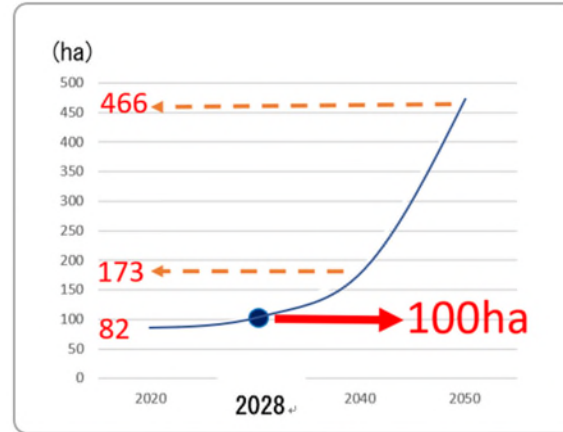
	耕地面積 ha	有機農 業面積 ha	割合	経営体数	有機農 業経営 体数	割合
岡崎市	1,865	82	4.4%	1,073	61	5.7%
愛知県	43,258	1,443	3.3%	26,893	1,290	4.8%
岐阜県	31,765	1,264	4.0%	21,015	1,234	5.9%
静岡県	36,465	1,584	4.3%	25,938	1,549	6.0%
三重県	39,656	1,871	4.7%	18,804	1,116	6.0%
東海	151,144	6,162	4.1%	92,950	5,189	5.6%
全国	3,232,882	115,269	3.6%	1,075,705	69,309	6.4%

環境保全型農業直接支払交付金取組面積の推移



目標

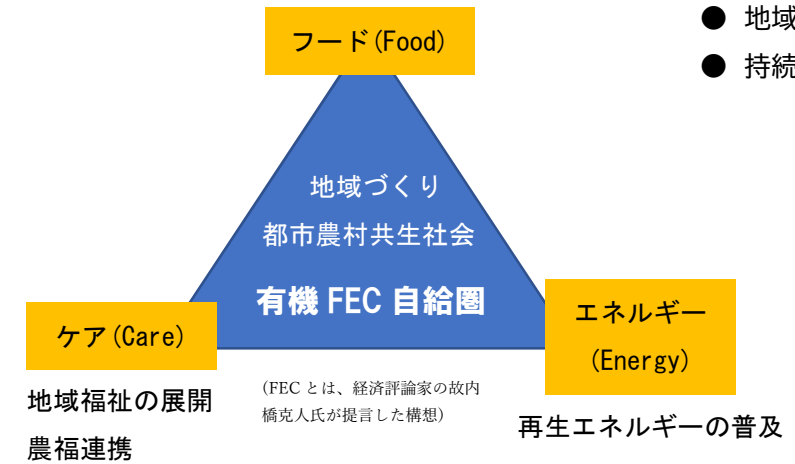
有機農業の面積の拡大 有機農業面積 100ha



基本理念

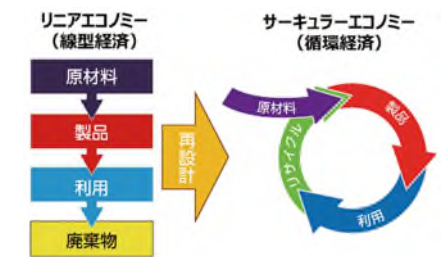
家康公生誕の地として、江戸のまちのシステムを活かした有機農業産地づくりを目指し、食・環境・産業の好循環を実現

持続可能なフードシステムの構築



- 地域での活動を中心とした循環型の社会
- 持続可能な社会: 低炭素 自然共生

with 家康公 after 大河



取組内容

● 有機農業の生産段階における取組

- 1 新たな担い手確保の支援 (有機農業塾・有機市民農園など)
- 2 有機農業者の育成支援 (営農指導体制の構築・セミナーの開催・環境保全型農業直接支払交付金の活用など)
- 3 スマート農業・省力化技術の普及支援
- 4 未利用資源の利活用推進

● 有機農業で生産された農産物の流通、加工、消費等の取組

- 1 販路開拓支援
- 2 地域内消費の推進
- 3 学校給食の推進 (有機農産物の給食食材への導入・食育の推進など)
- 4 都市住民や企業との連携検討
- 5 貯蔵・共同出荷体制の検討
- 6 6次産業化の推進
- 7 輸出の推進
- 8 消費者への情報発信・プロモーションの実施

オーガニックビレッジ宣言

令和6年3月26日

オーガニックビレッジとは、有機農業の生産から消費まで一貫し、農業者のみならず事業者や地域内外の住民を巻き込んだ地域ぐるみの取組を進める市町村のこと。愛知県内では、東郷町、南知多町に続く3番目の宣言となります。

岡崎市

オーガニックビレッジ宣言



岡崎市は、北から南に矢作川、東から西に乙川が流れ、また、その水源として市域の約6割にのぼる森林を有し、豊かな水源と自然環境に恵まれた地にあります。

これまで、この水源や自然環境を活かした農業が行われ、地産地消に取り組み、広く市民の皆さまに安全・安心な農産物が提供されてきました。

しかしながら、昨今では気候変動等による環境問題、燃油や肥料の価格高騰、担い手不足による耕作放棄地の増加などにより、農業に関しても様々な課題が顕在化しています。

このような中、農の持つ自然循環機能を活かし、有機質資材の有効活用や肥料・農薬の適正な使用による環境負荷低減に配慮した農業が求められています。

本市では、家康公生誕の地として、江戸のまちのシステムを活かした有機農業産地づくりを目指し、食・環境・産業の好循環を実現することを誓い、ここに「オーガニックビレッジ・オーガニックシティおかざき」を宣言いたします。

令和6年3月26日

岡崎市長 中根 康浩